

# 発見！白井の仕事人 28

## 心地よく暖かな布団のリフォームで50年、寝具のむとぅ

今回は、木下街道沿い白井第一小学校付近にある、市内で唯一の総合寝具販売店「寝具のむとぅ」を紹介します。



オレンジ色の瓦屋根が目印のお店

同店は、船橋市小室地区出身の初代店主が昭和30年代前半に現在の場所で「武藤商店」として、「うどん屋」という屋号で乾麺（うどん）の製造などをしていました。

その後、布団屋が少なかったことから、昭和40年頃に綿（わた）打ち機械を購入し、当時の日本家庭で主に使われていた綿布団の打ち直し（リフォーム）業を始めたそうです。

千葉ニュータウンの入居が始まった昭和54年に今の店舗を新築し、2代目の店主、武藤清さんが代を引き継ぎ、総合寝具販売店「寝具のむとぅ」として、新しく開業しました。

店主に話を伺うと「綿布団は日本の気候に合っており、特に敷布団として蒸れ感が少ない上、しっかりと体を支えて寝心地が良く、通常の維持管理で約10年

は利用可能でその内2、3回のリフォームを比較的安くできるためリースナブルで、自然の恵みである綿の実が原材料となるので、環境にも優しい布団です」とのことでした。

約20年前から、大型店やネット通販などに寝具販売のシェアを奪われつつある中で、同業者の数も年々減っているそうです。

そのような中でも、寝具の販売はもとより、布団のクリーニングや打ち直しなどには、電話一本でお客の家まで受け取りに行き、まごころあるリフォームで、心地よく暖かな布団にして自宅まで届けるサービスを続けています。



布団用の布を縫う店主

昨年商工会で始めた「暮らしなんでもおたすけ隊」事業にも加入しています。

皆さんの家で眠っている布団などがありましたら、心地よく暖かな布団にリフォームしてみませんか。

商工振興課商工振興班 内線 3243

# 発見！白井の仕事人 29

## 「この梨」の栽培技術の向上を目指して、川上果樹園

中木戸地区で梨を栽培・販売している「川上果樹園」を紹介しします。

川上果樹園は、ご夫婦と息子さんの家族3人で、有機肥料や枝の剪定、普段からの梨園の管理にこだわりをもって栽培し、市場出荷と自宅での直売を行っています。



川上さん親子が梨の枝の管理をしている様子

1年間の梨の栽培は、3月の花芽の整理から始まり、4月に花に花粉を付け、5月には花粉を付けた花が実になります。その中から形が良く大きい実を選び、それ以外の実を摘みまます。それから梨の実に日の光が当たるよう葉や枝を管理しながら、8月ごろから収穫となります。10月ごろに出荷が終わり一段落しますが、すぐに来年に向けて、土壌改良や枝の剪定などが始まり1年を通して作業があります。

また、長期的な管理として、植樹から30年以上経過した梨の

木は収穫量が落ちてしまうため、川上果樹園では計画的に梨の木を改植も行っています。

川上果樹園の梨畑は管理が行き届いており、日が当たる明るい梨園が広がっています。梨も日が当たることで、よりおいしくなるということです。

とても研究熱心な川上さんは、いろいろな産地に向いて技術の習得にも心がけており、習得した技術は惜しむことなく人に伝えていくことから、周りの人からも一目置かれています。



甘くておいしい川上果樹園の梨

市が梨の産地として、評価を得るには「1人が頑張っても駄目。白井の梨農家全体が栽培技術を高め、評価を得ていかなければならない」と話してくれました。

そんな川上果樹園の手間をかねて栽培したおいしい梨を、ぜひ一度味わってみませんか。

農政課農政班 内線 3252

# 発見！白井の仕事人 30

## スマートエコ・プロジェクトに取り組む、朝日機材株式会社

今回は、白井工業団地にある、建設工事関連の仮設用資機材を取り扱う「朝日機材株式会社」を紹介しします。

同社は、昭和22（1947）年に竹中工務店の100割出資によって設立され、現在は、メタルワン・竹中工務店・三菱商事の共同出資会社となっています。竹中工務店が手掛けてきたビッグプロジェクト「東京ドーム」「ナゴヤドーム」「日産スタジアム」「六本木ヒルズ」、近年では「新丸の内ビル」「東京ミッドタウン」などの建設工事に必要な仮設用資機材などを提供してきました。

昭和52（1977）年に白井工業団地の東側（第二工業団地）地区内、面積約13、420坪、44、285平方メートルの広大な敷地に白井管理センターを開設しました。管理センター内は、協力企業の社員を含めて約80人の技術者が働いています。

安全な仮設用資機材を迅速に配送できるように、建築現場などで使用されるメンテナンスの行き届いた「足場材」などが、種別ごとにペイントされ積み上げられています。

市内在住の山崎所長によると、業界に先駆け、太陽光パネルシステムなどを活用した仮設事務所向けユニットハウス「エコフィス」で環境負荷の低減につながる新しい取り組みをしているとのこと。また、全国

に9カ所ある仮設機材センターに先駆けて、白井管理センターには約1、000枚の太陽光パネルを活用した環境配慮の取り組みや、同センター内で使用している照明を水銀灯から環境負荷がより小さいLED照明や、LVD無電極ランプ（近年LED照明よりも優しい光源として工場や体育館などで利用されつつある照明）への入れ替えを進めているそうです。



ポリカ防音パネルによるビルの解体施工

さらに、意匠に優れた「ポリカーボネート防音パネル（クックドデザイン賞受賞）」を開発するなど、社会に対して自社の拠点と製品から「エコ」していく「スマートエコプロジェクト」に取り組んでいます。

これから東京オリンピック施設の建設工事では、高い信頼性をもとに仮設用資機材で工事の安全面を支えて行く朝日機材株式会社が目指していきます。

商工振興課商工振興班 内線 3243